

我が息子「三木幸翼」との対話から

2020年7月3日

先日、公益財団法人日本棋院より普及活動賞を受賞された帖地美乃里氏が、三木大輔様にご子息、三木幸翼（こうすけ）君についての記事を依頼してくださいました。以下は三木様にご子息にインタビューし、それをまとめてくださった玉稿です。幸翼君の普段の囲碁に対する姿勢が伝わる内容となっています。なお、幸翼君は現在中学2年生で、子ども囲碁大会の常連でもあり、2019年1月に初段となり、今は五段で打つという躍進振りです。

（成田 滋 記）

息子の成長を考えながら 三木大輔（父）

【囲碁への姿勢と将来】

◎囲碁を始めたきっかけは？

ある日の小学校での放課後、特に関心もなく、なんとなく兄について行ったところが子ども囲碁教室でした。その後、教室に行き続けるようになったのは、帖地美乃里氏の影響です。棋譜並べが得意で、コウ取りの多い300手越えの棋譜並べを4回程度で覚えられるようになったのですが、その原動力は帖地氏の熱心な指導です。

成功するとすごく喜んでもらえることから、期待に応えるべく努力し、どんどん上達していきました。しかし、幸翼は嬉しさを表に出すことはあまり無く、妥協を許さない上に、恥ずかしがり屋な、あまのじゃく君です。

◎なぜ囲碁が好きなの？

最初は自分でもうまく言えず、「石を置いたときの音がかっこ良いから」と言う程度でしたが、現在では、大人と同じように、囲碁の無限の可能性に魅力を感じているそうです。このような意見が言えるようになったのも、成長の一環だと思います。

オセロや将棋に比べるとルールが難しいように思うのですが、あまり苦も無く、学校の囲碁教室で覚えることができ、親としてはとてもびっくりしました。

◎将来プロになりたい？

「ヒカルの碁」を読んだり、日本棋院の大会に出たりしているので、碁の世界の厳しさも知り、プロになるのはさすがに難しいと感じているようです。でも可能であればなりたいとは思っているようで、将来のことなどの作文のネタにして書いています。たとえば「囲碁で元気な八王子」と題して、今後の高齢化社会の在り方について、囲碁を活用する作文を書いたことがあります。



プロの対局の生中継や解説の動画などを「なるほど～」と感心しながら見ることも多く、本因坊文裕氏に憧れています。

【囲碁将棋センターについて】

◎良い点

対局しながら長考できる所です。センター長の倉内満氏をはじめ、年配の方もみんなが相手をしてくれます。子どもに負けることをいとわず打ってもらえることは大変ありがたく思います。

◎印象的なこと

「3思して石を持って」や「すべてを救うことはできない」など格言を習い、親の私にも教えてくれました。妥協することを好まない幸翼にはとても印象的で、勉強になったようです。



◎ライバル関係

同じく通っている B 君、H 君とは切磋琢磨しており、一緒に長く続けることを切望しています。昨年、三人で日本棋院での団体戦に参加し、親の私も同行したのですが、とても感慨深いものがありました。同じ時期に同じ実力の三人が偶然めぐりあう…何か運命的なものを感じてなりません。

◎最近の学業

コロナ禍でしばらくセンターに通えず、再開を心待ちにしていました。中学生になって試験勉強や宿題が多くなって大変になってきましたが、帰宅後はまず勉強し、その後、囲碁を楽しむようにしており、親の私と違って真面目にしています。

【家庭での様子を親が見て思うこと】

◎真剣で満足しない

碁は毎日打っています。もっぱら自分対自分で腕を組み、真剣な顔つきでやっています。囲碁センターで年配の方々の技量とともに姿まで吸収しているようです。

ときに自分の打った手に対して、良い応手がみつからないときがあり、大変苦悩するときがあります。それだけ自分が良い手を打ったわけでもあり、もう少し満足する面があっても良いとは思いますが…自分を誉めることはしません。

自分対自分が成り立つのも不思議に思うのですが、すごい集中力を身に付けました。

◎悔しがり

並外れて負けず嫌いなので、親としては悔しがりすぎることが気になっていました。本人は悔しがらないと強くなれないと言い、泣いたり、怒ったりします。程度の問題だと思われませんが、最近ではだいぶ自分を抑制できるようになり、親としても安心傾向にあります。



それでも、勝利の嬉しさは内に秘め、自分から表現することはありません。それどころか、勝敗を聞いてもなかなか教えてくれないので、負けたのかと思いましたら、実は勝っていた…ということがよくあります。

◎人に教える

最近では9路盤で母親に教えています。負けることもありますが、わざと負けることはしません。今まで人に教えることがなかったので、良い経験になっています。

父親である私とは19路盤でやっていますが、幸翼にはまったくかなわないので、20子ぐらい置石させてもらっています。最近ではそれでも負けてしまうので、負けそうになると黒と白を交代するなど、あらゆるズル技を駆使するのですが、それでも負けてしまうことが多く、本当に強くなったと実感しています。

◎全体的な成長

囲碁を始める以前と比べて、現在はとても成長しています。特に大きな収穫は、得意なことができたことによる自尊心の向上のようなものです。人間としての芯ができ、生きる支えができたと感じます。とくに帖地氏が、囲碁センターに誘ってくれたのが幸翼の人生の転機になりました。高度に頭を使い、人と接する機会をたくさん与えてもらうことができました。失礼な言い方かもしれませんが、息子は倉内氏と帖地氏をお爺ちゃんとお婆ちゃんに見立てて育てているかのようです。感謝の気持ちで一杯です。学年が進行するにつれ、囲碁が得意な幸翼には将来どのような

職業がふさわしいのか…親としては気になりますが、囲碁との出会いと成長が、より良い方向へ導いてくれていることは間違いないと感じています。